

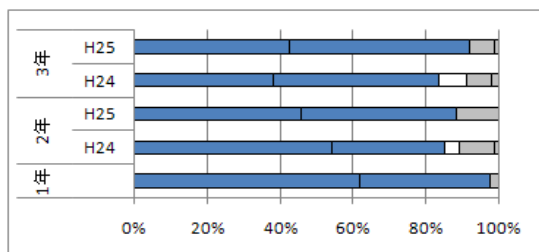
山ノ内町立 山ノ内中学校 学校だより

～学校評価 保護者アンケートの結果から～

平成 25 年 7 月 26 日

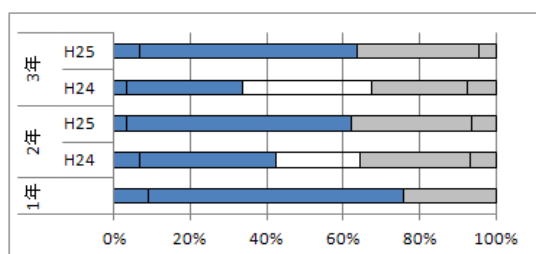
本校では、生徒の成長をねがい、生徒の様子や学校の状態を正確に把握し、その結果を受けて対策を講じています。もちろん、中学生は思春期を迎え生徒への働きかけ方を含め難しい時期であり、成果をあげることは簡単ではありません。しかし、このアンケート結果を受け、重点を決めだし改善を図っていきたいと考えています。

問 1：喜んで中学校へ行っている。



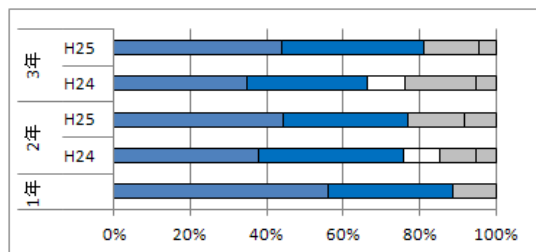
左の濃い灰色の帯は「そう思う」「まあそう思う」の値を合わせたものになります。縦の線はこの選択肢の区切り部分です。2,3年生の H24 の帯は中央に白い部分がありますが、去年「どちらともいえない」という選択肢があり、それを選択した割合になります。右の灰色は、「あまり」も含めて、「そう思わない」を選択した保護者の割合となります。例えば、2年生の H24 のグラフは昨年の1年生の同時期の保護者の皆さんの割合となります。

問 2：学校の授業が分かりやすいと感じている。



昨年度の「どちらともいえない」を選択した方々の数値が、今年はほとんど「まあ」も含めて「そう思う」の選択をされたと考えられます。とはいえ、十分な状況とは言えません。今学期改善の取り組みとして NRT の結果を受けて、領域別の全校補習を始めました。まだ、2回しか行っていませんが、授業でわからなかった所を再度見直し、確実な理解につなげていきたいと考えています。

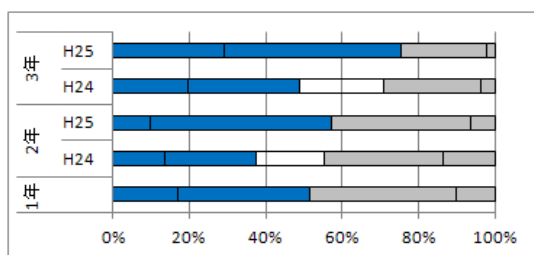
問 3：毎日家庭学習に取り組んでいる。



います。

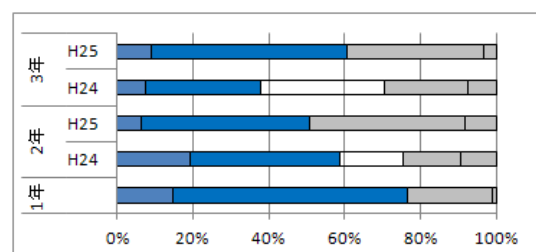
授業でわかったことも、復習を定期的にしていかないと忘れてしまいます。学年が進むにつれ積み残しが増えていくと、取り返しがつかなくなります。全体の数値としてみれば、2年生の「思わない」のご家庭が増えている点が残念です。特に、数学や英語のように積み重ねの教科は、「分からない」という領域や単語を増やすほど、授業が分からず、つまらなく、意欲がなくなるという悪循環に陥ります。是非、このような状態は避けたいと願っています。

問 4：将来のこと、進路などについてよく話をする。



学年が進むにつれて数値が向上しています。また、今年の2年生は去年の2年生より進路について話す家庭が、この時期としては、増えているという結果が出ています。大切にしたいことは「進路」イコール「高校進学」ではないという考え方です。自分はどんな特徴をもっているのか、自分の将来をどのように考えているのか、そのために、いろいろな情報を得ようとする姿勢を育てることと考えます。保護者の皆様にも、そのような関わり方をお願いしたいと思えます。

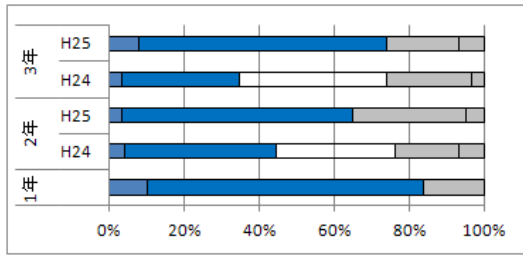
問 5：生徒は、挨拶がきちんとできる。



自由記述を含めて挨拶ができなくなったという声は多いです。昨年度も同じように書きましたが、生徒たちの 80% 前後は、挨拶がよくできると考えています。

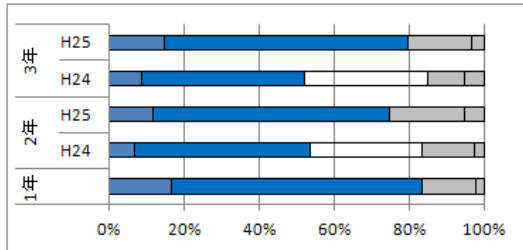
その点の意識に違いがあり、第三者から見ると山中生徒の挨拶は決していい状態ではないという自覚をさせていく必要があります。学校としても、機会を見て意識付けを図っています。今後ともよろしくお願ひします。

問6：生徒は、きまりやマナーを守ることができる。



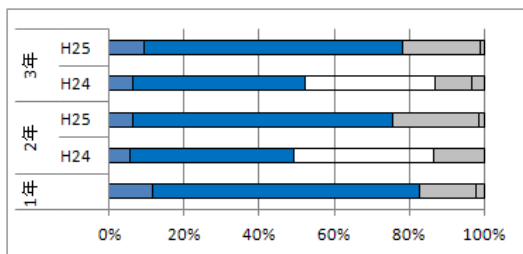
この項目も、昨年度と同様、生徒アンケートでは、肯定的な回答が圧倒的に多くなって 90%前後になっています。後ほど詳述させていただきますが、生徒にとって正しいと判断される基準が社会一般の通念からすると甘いと言わざるをえません。特に 2 年生では、否定的な見方をされている保護者が、1 年前より増えています。学校で定める決まり、社会生活を営む上での一般的な常識を定着させていく取り組みが必要と考えています。

問7：職員は、保護者の相談に親身になって考えてくれる。



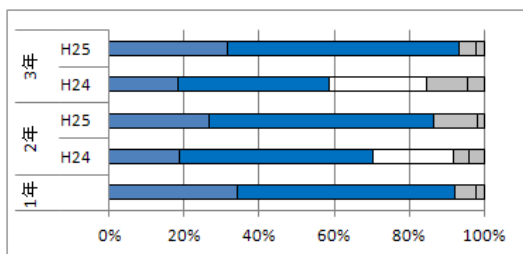
全学年ともに否定的な回答が 2 割前後の点、昨年度から比較してあまり改善されていない点、誠に申し訳なく思います。特に生徒指導に関しては、保護者の皆様との連携なくしては効果を示さないことが多く、この値は改善されなければならないと考えます。相手の立場に立って考え、対応するという点、再度確認していきたいと思えます。昨年度も述べさせていただきましたが、不十分と感ずる点がありましたら、学年主任・養護教諭など他の職員へ相談してみてください。疑問や誤解を解消するべく、力を尽くします。

問8：学校は、安全面で十分に配慮している。(施設面・安全教育等)



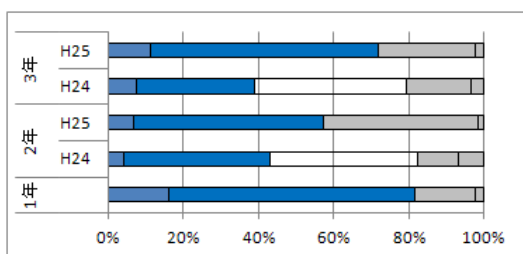
文章表記で頂いている安全面の不十分さは、登下校を中心とした交通安全の面です。特に、校門付近の多数の生徒については、「校門内で…」を呼び掛けており、多少改善されたのではないかと思います。しかし、まだまだ不十分とご指摘を頂きました。また、本校前を下っていく生徒では未だに左側通行の生徒を見かけ、その都度注意しています。しかし、「見られていなければいい」という意識かと思われそうですが、徹底しきれていない所が現状です。今後、登下校指導を集中的に行う時期もあります。更に徹底を目指したいと思えます。保護者の皆様にも、不適切な登下校の様子が見受けられましたら、是非お声をかけて頂ければ幸いです。

問9：各種のお便り等で中学校や生徒の様子がよく分かる。



部活動を担当する職員が多数を占める中で、学級担任が小学校のように頻繁にお便りを出すことは、困難な状況です。学年通信等は、担当者の過度の負担にならない範囲で発行していきます。また、この学校便りは保護者の皆様の生の声と学校の実情を知っていただく機会ととらえています。学校からの発行物でよくわからないことなどありましたら、遠慮なくご連絡を頂きたいと思えます。

問10：保護者へ教育の方針を分かりやすく伝えている。



昨年度のこの時期、「肯定的な回答が 5 割を超えるよう」と書かせていただきました。今回、全体として、その数値を超えることができました。しかし、これが十分な状態とは、捉えていません。この学校便りでも、保護者の皆様からのご意見にお答えしながら、教育の方針を御理解いただけるよう努めてまいりたいと考えています。

[個別にいただいたご意見について]

たくさんのご意見をいただきました。ありがとうございます。職員・生徒個人に関わる内容については、掲載を差し控えさせていただきます。但し、内容は個々に伝え、改善を図っていきます。ご了承ください。また、紙面の関係で、多少文章を簡略化しているところもありますがその点もよろしくお願ひ致します。

[学習について]

特定の教科が、分からないという声を3名の方から頂いています。また、同一教科でも教科担任によって、分かりやすさに違いがあるとのこと指摘でした。「一層の努力をお願い致します。」というお言葉を頂きました。

学校評価アンケートは、生徒にも質問しています。その中に「授業が分かりやすい。」という質問項目があります。今回「(まあ) そう思う」生徒は、1年90%、2年80%、3年72%となっていました。この値は、9教科全てを含んでの選択です。もちろん我々は100%を常に目指さなければなりません。そのために、個別の教科と学級の状況は全てデータとして先生方に示しています。その結果を見ながら、2学期の授業に活かしていきたいと思えます。

また、今学期新たな学力向上の取組を始めました。月2回を基本として、清掃時間をカットし、全校補習という名称で、苦手な所を復習する講座を設けたり、日々の学習で理解がもう一歩だった所を質問に行ったり、自分で更に練習問題に取り組んだりする日を設けました。ここでは出来るだけ一人ひとりの困っている所の解決につなげていきたいと考えています。

[学校生活について]

- ・学校のルールが厳しいほうがいいとは思わないが、学校は「学ぶ」「人として成長する」所とであり、その環境づくりを学校と家庭で協力していこうと伝えてもらおうと、親の意識が高まると思えます。そうすると、学校生活の妨げになるメディア・お菓子等の不要物はいらぬ、人間関係作りは大切等、理解されていくと思えます。
- ・家でも学校でも、当たり前前の方が当たり前前のできる子どもたちに成長してもらいたいです。
- ・学校を取り巻く環境は厳しく大変かとは思いますが、学業・部活動が充実しての中学校生活だと思えます。生徒、先生が細かいことにあまり気を取られず、思い切り学業や部活に取り組めることを望みます。
- ・新しい担任の先生になってまだ3カ月。学校での話を聞いていると、よくやって頂いているのが、わかります。今はなじめたようで喜んでいっています。
- ・今の子どもたちは我慢することができず、すぐ理由をつけて逃げってしまう傾向にあると思えます。親が言っても反発してしまい、学校でも難しいかと思えます。少しでも強い子どもたちに成長してくことを期待します。

貴重なご意見ありがとうございます。中学校3年間は、生徒の心が子どもから大人に変わる時期です。自立しようという心が芽生え、その心が回り(学校や家庭)からの声かけに反発する形になりがちです。その難しい時期、常に社会の中の一員として自らの行動を振り返り、よりよい選択が出来る生徒の育成を目指したいと思えます。

- ・クラスの中でいじめがないように注意して見て頂きたいと思えます。

学校生活アンケートを年4回実施し、その際、学級担任は全生徒と面談を行い、実態把握に努めています。中学生という時期、生徒たちは、必ず人間関係で悩みを持ちます。そして、それを解決することで人との関わり方を学び、大人になっていきます。時には、方法を間違えいじめになってしまうことが考えられます。出来るならば、子どもたち自ら解決できることが好ましいのですが、そうならないことも昨今多くあり、学校と家庭で子どもたちの様子を細やかに見つめていくことが大切と考えます。学校では、養護教諭・教頭・校長が「いじめ・セクハラ・パワハラ相談窓口」になっています。遠慮なくお声をかけてください。

- ・思春期の女子同士のいざこざに親がどの程度入っているのか、またそれを学校はどの程度知っているのか。
- ・スマホ等、学校へ持って行っている子がいるようです。一人で、登下校時使用しているところを見かけます。

人間関係のトラブルが、「日常生活に支障をきたす状況」であれば、教師・保護者による指導が必要と考えます。生徒が真に自立していくためには、人間関係についても自らの力で解決できることが必要です。しかし、生徒の「人間関係力」は低下の傾向にあり、相手の気持ちや反応を推し量れないまま、自分勝手な言動でトラブルを起こすことが増えています。

学校では、学級担任や部活顧問が中心となり、人間関係のトラブルについてアンテナを高くしていますが、必ずしもすべてをキャッチできるわけではありません。気がかりなこと等ありましたらご連絡ください。対処についても、支障の程度、本人の解決能力等によって、一律にこうするというものではありません。疑問、不安などありましたら、是非職員とご相談ください。

スマホ、音楽プレーヤー等不要物を持ち込む生徒もいます。発見した時には、下校まで預かる等の対処をしていますが、生徒も気をつけているでしょうから発見に至らない場合も多いかと思えます。不要物等を持ち歩いている場面をご覧になりましたら、お知らせいただきたいと思えます。

・夏の制服のことですが、校内だけでも、半そでシャツ短パンでいることはできないでしょうか。熱中症になってしまいます。期間を決めて、暑いときだけでもお願いします。

新聞報道では、確かに日々「熱中症で…」という記事を見かけます。本校生徒で半袖のワイシャツを着ている者は1割程度、ほとんど長袖です。学校では、時期に応じた服装をしようと呼び掛けていますが、半袖を着ようとしない生徒が多いのが現実です。半袖を着なさいという強制がなくても、自らの判断で寒暑に合わせた調整ができるように育てていきたいと思えます。

併せて熱中症対策として、先日スポーツドリンクを用いて水分補給を十分行うよう、生徒たちに伝えました。また、教室には多数の扇風機が設置され、普通教室の風通しは良好です。昨年度、「更衣室を…」という要望があり、当時はお答えできませんでしたが、今年度空き教室が一つ増え、男女別の更衣室が設定できる環境となりました。近々更衣室予定の教室の出入りに遮蔽カーテンの設置予定です。部活で汗にぬれたシャツを着替える環境も整えます。まずは、時期に応じた服装のあり方を考えさせたいと思えます。

・保護者の相談に学校職員は親身になっているかですが、自分自身相談したことがないこと、周りの人で相談してどうだったかということ聞いていないので、わかりません。

…至らない点がありましたら、教えて頂ければと思います。よろしくお願いします。

・小学校時代は、担任の先生の通知が毎日あってそれが当たり前ようになっていたため、物足りなさを感じているだけですが…。毎日とは言いませんが、もう少し、様子を知らせてほしいと思えます。

…問9のコメントでご理解を頂ければと思います。

[通学の様子について]

・農道道路について、昨年度の交通事故以降でも左側通行をしている生徒が多い。右側通行の徹底をお願いしたい。

・登下校時、道に広がって歩行している生徒が時々います。危ないので、せめて2列までの方が、と思えます。友人とのおしゃべり楽しそうですので、注意はしていませんが、気づいてほしいものです。

・下校中、校門前で集まっている様子を何度か見ました。とても危ないと思えました。待ち合わせや、何か話したいこともあると思えますが、校門の中だったら、まだ良いのかもと思えました。

問8の中でお答えさせていただきました。昨年度は、もっと厳しいご批判を頂き、その内容を生徒に示したり、秋の下校指導を行ったりと取り組んでまいりました。

今回も、頂いたこのご意見を生徒に返し、自らの下校の見返しを行わせると共に、校門前の下校指導の充実、交通安全週間を中心とした時期の下校指導を行い、交通安全を意識した登下校になるよう心がけていきたいと思えます。保護者の皆様にも何卒ご協力を頂きたいと思えます。

[挨拶について]

・挨拶はよくしてくれます。素晴らしい生徒たちだと思います。

・挨拶について、前に比べて声小さく、できていない生徒が多くなったと思えます。以前の山中生のように、こちらが恥ずかしくなるくらい元気で気持ちの良い挨拶ができる生徒が増えたらと期待しています。

・今年になって、生徒から挨拶をされたのが10人もいません。山中からは、挨拶が消えてしまった。

・3年生女子には、大会等で挨拶をしても反応がない。

・昨年度まで、校内に入ると大きな挨拶が聞こえていたが、今年になり、急に挨拶がなくなったように感じる。特に、2年生。

・挨拶ができない生徒が多い、以前より多くなっている。同じ部活の生徒でも、学年が違うとできない生徒がいるのは残念です。でも、このアンケート結果で何か改善されているのでしょうか。挨拶ができるできないは、親のしつけもあるし。

・挨拶について、学校の中では比較的良くできていると思えますが、登下校中は、こちらからしても返してくれないこともあります。それでも、大人から声をかけていきたいと思えます。

・最近挨拶が少なくなったように感じます。挨拶が出来る子とそうでない子との差が大きいような。私も挨拶頑張ります。

声に出して挨拶をすることができない生徒が増えているという保護者の方が多いです。問5にあります通り、2年生の保護者の皆さんの回答としては、「思わない」という回答が増えています。

先日地域誌に「山中生に率先して「こんにちは」の声を掛けられて…」という記事が掲載されました。学校では、その時の全校集会でこの記事を紹介しながら、「先に挨拶してもらおううれしさ」「挨拶は率先してする人への親切」という趣旨の話をしました。こんな話をした日の挨拶は、素晴らし

かったと思います。そして、しばらくすると元に戻ってしまいます。挨拶の向上に対して継続的な取り組みの必要性を実感しています。今、生徒会では「あいさつマイスター」募集という企画に取り組んでいます。これも挨拶の意識付けの一環としての取り組みです。また、形として一番身につけやすい場合は部活動の中とも考えています。昨年度末「部活動を通して協力していただく保護者の皆様に対しての挨拶は、如何か？」というご指摘を頂きました。年度当初、各顧問にはこのような面についての配慮を要請しました。いろいろな角度から、根気良く向上の機会を作り出していきたいと思います。

また、保護者の皆様の中に「自分から、大人から挨拶をしていこう」というご意見がいくつもあり、大変心強く思います。学校・家庭・地域の連携がこういう所から形になっていくのが理想だと感じました。

[部活動について]

- ・せっかくやりたいと思って入部しても、顧問の先生が未経験で全く指導ができない…これは、山中に限ったことではありませんが、すごく不公平感を感じます。どういう事情で未経験のスポーツの顧問に決まるのか…。(中略) やっぱり指導してもらえないのならば、向上できません。(中略) 新任の先生で顧問としてどうしていいかわからないのは当然だと思いますし、わからなければ自分で考えて聞かすればいいと思いますが、バックアップというか、サポートしてくれる先生がいてもいいんじゃないのかな？と感じます。すごく残念な気持ちです。
- ・部活顧問のどっちでもいいという対応（「はいかがなものでしょうか。」という意味で解釈）。やるからには、勝ちたい。例えば、「チーム T シャツは強制ではないので、作っても作らなくてもいいです」という対応に、保護者は「？」と思いました。1年で新たな気持ちで入部して早々参りました。専門知識のある先生についていただきたい。

各部のスポーツに精通した職員を配置することは、現実的に難しいです。また、今後数年間は学級数減に伴い、本校の職員の数が大きく減少していきますので、現状の部活数に対して職員を2人配置することは不可能になります。学校規模に対して部活数が多すぎる現状の中で、入部者のいる部活を残し、指導の実をあげるには、保護者会・外部指導者の協力がとても大切です。3年先、5年先を見据えての各部でのご協議をお願いします。

練習時間中の T シャツ等については、保護者夫々で考え方も違いますし、そうした点も話し合っただけであれば幸いです。

- ・子どもの試合の観戦に行き、気になったことを書きます。親の仕事上応援に行かれなかったのに、「たまに来ただけで、子どもの実力はわからない」という意味のことを言われました。(中略) 応援に行かれないことをとても罪なように言うことは…。出来るなら、応援に行きたいですが、それができない家庭もあることを理解してほしいです。もっと、子どもたちと先生に部活を任せてもいいのではないのでしょうか？
- ・…各保護者会の中で、保護者の皆様の関わり方につきまして、話し合いを持っていただき、お互い気持ちのよい応援ができますよう、お願い致します。
- ・部活動のあり方がよく分かりません。社会体育で部活動で対応しきれない部分を補っていかうことなのでしょうか。親がどこまでかわらなければならぬのか、子どもの主体性まで奪われていないか、どう理解したらよいのか、わかりません。

昨年度末（今年3月）、長野県教育委員会スポーツ課より、「社会体育を含めた専門部活動のあり方」について提言がなされると、新聞報道がなされました。先日文科省よりこの提言がありました。県の方では、この提言を受け部活動のあり方の指針が出される予定です。

本校としては、その指針を待っている段階です。それまでは、基本的に昨年度同様の活動としていきます。昨年度末、部活動と社会体育の完全な切りはなしの体制ということで準備を進めてまいりました。今現在、社会体育の規約の作成を含め、その作業は停止していることとなります。いずれにしても、県の答申が出された所で、改めて部活動運営委員会をもち、明確にしていきたいと考えています。

- ・以前に体罰に関するアンケートがありました。その時気付かなかったのですが、外部の方による言葉の暴力です。部活中に技術面の指導とは関係ない内容のひどい言葉を聞いたことがあります。(後略)
- ・…県から通達のありました、スポーツ指導者に関わる指針を改めて配布徹底を図りたいと思います。また、具体的な事例につきましては、是非お教えいただきたいと思います。よろしくお願致します。

[進路について]

- ・進路について、学校説明や学校案内など、私立高校・公立高校の区別どれくらいの学力でいけるかなど全く知りません。目標を持って勉強を頑張るには早めに説明会などがあると子どもも高校の様子など頭に入ってくると思います。
- ・2年生は、そろそろ将来のこと（受検）を考えてもいいのかなあとと思っているが、本人はいたってのんきで3年になってから心配。親が言っても聞かない、どう言えばいいのか、どう対応すればいいのか、親も分からない。本人も将来何をしたいのか、わからないのかもしれない。

進路に関しての3年間の基本的な流れをお話ししておきたいと思います。

- (1)3年間（実は、小学校時代から）の学校生活の様々な活動を通して「出来た」「わかった」という自己有用感の体験を積むことが大切と考えています。「今、目の前にある課題についていろいろ解決策を考えて取り組んだら、こんな成果が出た」という体験を積み、自信の持てる人間に成長してほしいという願いが根底にあります。それは、日々の学習、生徒会活動、学校や学年学級の行事、専門部活動いろいろな場面にあります。
- (2)自分は、どんな特性をもった人であるかを知ること（自己理解）。例えば、コツコツと物事に取り組むタイプだとか、社交的で人との関わりが得意なタイプなど。
- (3)社会の中には、どのような仕事があるのか。そして、その仕事を進めるためには、どのような力が必要なのか知ること。（1年生の職場見学、2年生の職場体験等）
- (4)自分は、どんな職業に向いているのか考えること。そして、それを実現するために、高校進学が必要なら、どこを目指すのか。（2年生の後半から）
やはり、このように、一歩ずつ段階を進んでいくことが大切かと思えます。具体的な高校調べなどは、3年生になり、インターネットを使ったり進路情報などで十分にお伝えされます。
要点的な記述でしたが、ご不明な点は学年主任の先生等に遠慮なくお聞きください。

[校舎の維持管理について]

- ・体育館が古いので心配です。
- ・体育館を早く新しくしてほしいです。

体育館の耐震強度は、基準を十分満たしている状況ですのでご安心ください。ただ、細部にわたって老朽化が目立っています。決して十分な状況ではありませんが、必要に応じてできる限りの対応をしていきたいと考えています。ご理解のほどをお願い致します。

[学校評価について]

- ・今までアンケートを取って、改善されたことがありますか？一つもないと思います。皆さんの労力と紙の無駄だと思うので、やめた方がいいと思います。
- ・このアンケートが学校教育の改善や生徒のより一層の成長につながるための資料となっていますか？

「紙の無駄だと思うので、やめた方がいい」というご意見ですが、学校としては右のような例から無駄とは考えていないことのご説明したいと思います。グラフをご覧ください。最初のグラフは、現3年生の昨年2学期と今回の「清掃を一生懸命やっている」の問での回答です。当然、昨年の結果を受け、手立てを講じた結果です。また、2つ目のグラフはある先生の日々の授業での「見きわめ」に関する生徒の回答です。生徒の振り返りを受け、改善策を講じ、学期ごとに改善していることが分かります。もちろん、挨拶のようになかなか数値の向上することができない項目もあります。しかし、結果を受け、対策を考え、実行してみて、改めて評価するという流れは、現在どの民間企業でも行われている手法です。学校も具体的数値をもとに改善の効果を明らかにしていく方法は、今後とも大切にしていきたいと考えています。

